

（鯖街道熊川宿 説明看板：長屋道）

長屋道という道

この狭い路地は、かつて兵舎として使われていた長屋（長い家）と呼ばれる平屋建ての建物に通じていました。そこには、町奉行の部下であった足軽という位の低い歩兵が最大 16 人住んでいました。時が経つにつれ、兵舎に通じる道は長屋道、「長屋への道」として知られるようになりました。建物自体はもはや存在していませんが、路地はその歴史的な名前を保持しています。

足軽という兵士は通常、さまざまな軍事行動に関わっていましたが、比較的に平和だった江戸時代（1603 年～1867 年）には、彼らは町のパトロールや門番などの公務に従事することがよくありました。熊川宿に駐屯した足軽がどのような任務を遂行したかを示す記録は残っていませんが、彼らは町奉行の藩の仕事を支援したと考えられています。その仕事には、近くの幕府が管理した蔵へ年貢として送られる米の出荷の対処や、旅行者が輸送品の関税を支払ったり、武器や禁止品の検査を受けたりした熊川番所の立番が含まれる可能性があります。